銀行

1. 評価対象企業（13社）

【主要銀行】（5社）

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラストグループ、三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループ

【地方銀行】（7社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、横浜フィナンシャルグループ（注1）、西日本フィナンシャルホールディングス（注2）、千葉銀行、群馬銀行（注2）、ふくおかフィナンシャルグループ

【専門銀行】（1社）

ゆうちょ銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注1）コンコルディア・フィナンシャルグループが商号を変更した（2025年10月）。

（注2）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	7	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	12
計		18	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは20名（所属先20社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、主に**経営陣のIR姿勢等**、**フェア・ディスクロージャー**および**ESG関連**の項目内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は79.1点（昨年度77.8点）、総合評価点の標準偏差は4.9点（昨年度4.0点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が80%（昨年度78%）、**説明会等**が80%（昨年度79%）、**フェア・ディスクロージャー**が79%（昨年度85%）、

ESG 関連が 79% (昨年度 76%)、自主的情報開示が 77% (昨年度 75%) となった。

- ③ 評価項目 (全 18 項目) について見ると、次の 8 項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目 (a)、説明会等の中の 3 項目 (b) (c) (d))、ESG 関連の中の 3 項目 ((e) (f) (g))、自主的情報開示の中の 1 項目 (h)) が、平均得点率で 80%以上となり、高水準であった。

- (a) 「IR 部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者とは有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」(平均得点率 81% [昨年度 80%]) (得点率 (評価点/配点<以下省略>) : 60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 9 社)
- (b) 「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか」(平均得点率 82% [昨年度 77%]) (得点率 : 70%台 3 社・80%台 10 社)
- (c) 「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか」(平均得点率 82% [昨年度 84%]) (得点率 : 70%台 3 社・80%台 10 社)
- (d) 「決算の説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」(平均得点率 82% [昨年度 77%]) (得点率 : 70%台 2 社・80%台 11 社)
- (e) 「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 84% [昨年度 78%]) (得点率 : 70%台 1 社・80%台 11 社・90%台 1 社)
- (f) 「環境に関する情報、定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 81% [昨年度 80%]) (得点率 : 60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 7 社・90%台 2 社)
- (g) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 80% [昨年度 81%]) (得点率 : 70%台 5 社・80%台 8 社)
- (h) 「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 80% [昨年度 77%]) (得点率 : 70%台 7 社・80%台 4 社・90%台 2 社)

- ④ 自主的情報開示の次の項目は、平均得点率が 73%となり、全 18 項目の中で最も低かった。

- ・ 「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の実施資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか」(平均得点率 73% [昨年度 72%]) (得点率 : 50%台 2 社・60%台 1 社・70%台 7 社・80%台 3 社))

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井住友フィナンシャルグループ (ディスクロージャー優良企業 (2 回連続 6 回目)、

総合評価点 85.7 点 [昨年度比+0.3 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 86%)、ESG 関連 (87%)、自主的情報開示 (88%) が第 1 位、説明会等が同得点第 1 位 (83%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位 (84%) となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となり、「IR の基本スタンス」が同得点第 2 位となった。これらに関連して、経営陣自ら経営方針等を説明しており、投資家の期待や懸念をよく理解しているとの声のほか、経営陣は具体的な数字をもとにわかりやすい説明を心がけているとの声が寄せられた。なお、スモールミーティングの機会を評価しつつ、オンライン設定を望む声があった。「IR 部門の機能・姿勢」(同得点第 4 位)も、85%以上の得点率であった。これに関連して、IR 部門の人員が多くはないが、効率的かつ細やかに投資家のニーズを把握しており、経営陣との情報共有も密であるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」が同得点第 1 位となった。これに関連して、決算説明会資料等の内容は優れており、説明も投資家のニーズを踏まえて簡潔・明瞭であるとの声が寄せられた。また、「説明会、インタビューにおける開示 (連・短の両決算)」の 4 項目のうち、「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること」も共に同得点第 1 位となった。一方、

「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」は同得点第5位（昨年度第1位）に、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」は同得点第6位（昨年度同得点第3位）となった。これらに関連して、セグメント業績において、為替・金利影響に関してわかりやすい情報開示を期待する声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「動画配信、質疑応答等のスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は同得点第2位となった。これに関連して、決算説明資料の内容が詳細であり、ウェブサイトでの開示も充実しているなどフェア・ディスクロージャーに配慮しているとの声が寄せられた。また、質疑応答のスクリプトが充実しているとの声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、7項目中6項目において最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。また、「目標とする経営指標等」（同得点第2位）もトップと僅差であった。これらに関連して、社外取締役によるパネルディスカッションを高く評価する声があったほか、社会的価値の創出を経営の柱に置き、組織的に取り組んでおり、それらを積極的に開示しているとの声も寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。充実していたイベントとして、IR Day を挙げる声が多く、インパクトレポートの開示と説明会の開催や、社外取締役が参加したサステナビリティ説明会を評価する声も寄せられた。また、統合報告書における企業価値向上策の長期的課題や取り組みの説明を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 三菱UFJフィナンシャル・グループ（総合評価点 84.4点〔昨年度比+3.4点、昨年度第3位〕）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（84%）、**ESG 関連**（85%）、**自主的情報開示**（87%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（84%）、**説明会等**が第3位（82%）となった。昨年度に比べて、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」（第2位）および「IR部門の機能・姿勢」（同得点第2位）が、共に85%以上の得点率であった。これらに関連して、経営陣は経営方針をわかりやすく伝えており、投資家の考えを理解しようとする姿勢が強くなってきているとの声や、経営トップだけでなく社外取締役を含めた経営陣とIR部門が双方向で情報を共有しているとの声が寄せられた。IR部門については、人員、組織的サポートが優れており、詳細な情報を保有し取材時に十分に説明ができていたとの声があった。「IRの基本スタンス」（同得点第9位）は、昨年度に比べて得点率が改善したものの、平均得点率に達しなかった。これに関連して、不祥事について、対応が後手に回った感があるとの声があった。一方、社外取締役と投資家との意見交換の場を設定したことを評価する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の4項目のうち、「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること」が共に同得点第1位となった。そのほかの2項目は、平均得点率と同程度であった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（第6位）は、昨年度に比べて得点率が改善した。これらに関連して、説明会資料における長期の各指標の推移と要因分析が簡潔でわかりやすいとの声のほか、決算説明会資料等の内容は優れており、丁寧な説明がなされているとの声が寄せられた。なお、セグメント業績での為替・金利影響のわかりやすさを期待する声や事業本部の開示の充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「動画配信、質疑応答等のスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は同得点第2位となった。これに関連して、決算説明資料の内容が詳細であり、ウェブサイトでの開示も充実しているなどフェア・ディスクロージャーに配慮しているとの声が寄せられた。また、期中の業績修正を実施し、それをタイムリーに開示したことを評価する声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、7項目中3項目において最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。また、そのほかの項目も、「人的資本に関する情報開示」（同得点第6位）を除き、高い評価となった。これらに関連して、気候変動関連の開示は毎年充実度が増しているとの声や、日英同時の社外取締役スモールミーティングの開催

を評価する声が寄せられた。なお、最近の不祥事発生を踏まえ、カルチャー改革の効果（現場までの浸透）に関する十分な情報を望む声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に高い評価（同得点第1位を含む）となった。充実していたイベントとして、Investors Day を挙げる声が多かった。そのほか、社外取締役とのスモールミーティングの開催や、気候変動への取組みおよび株主提案に対する見解の説明動画等を評価する声があった。また、統合報告書におけるCEOメッセージは経営の考えを自分の言葉でわかりやすく説明しており評価できるとの声があった。

第3位 横浜フィナンシャルグループ（総合評価点 83.1点〔昨年度比+1.6点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（86%）、説明会等が同得点第1位（83%）、ESG 関連（83%）、自主的情報開示（82%）が第4位、経営陣のIR 姿勢等が同得点第4位（84%）となった。
- ② **経営陣のIR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能・姿勢」（同得点第2位）が85%以上の得点率となった。「経営陣のIR 姿勢」（同得点第4位）および「IR の基本スタンス」（同得点第4位）も評価された。これらに関連して、経営トップの企業価値向上へのコミットメントが高く、また、経営方針の説明が明確でわかりやすいとの声や、最近の開示の改善後も、高水準の説明を維持しようとする姿勢は評価できるとの声が寄せられた。なお、株主還元方針や成長戦略について開示の充実を望む声があった。IR 部門については、人材の質が高く、企業実態の理解に役立つ議論ができるとの声や、経営トップとの距離が近く、情報共有が効率的に行われている印象との声があった。
- ③ **説明会等**においては、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」および「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第1位となった。そのほかの2項目は、平均得点率と同程度であった。これらに関連して、説明会や決算説明資料等において継続的に丁寧な説明がされているとの声や、幅広い投資家の期待や懸念をくみ取って、説明会や資料においてそれを説明しているとの声が寄せられた。また、関税影響、金利感応度の詳細な開示が有益であるとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「動画配信、質疑応答等のスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は最も高い評価となった。これに関連して、決算説明資料の内容が詳細であり、ウェブサイトでの開示も充実しているなどフェア・ディスクロージャーに配慮しているとの声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンス」の中の、社外取締役の関与に関する項目が同得点第1位となった。これに関連して、社外取締役スモールミーティングを評価する声があった。また、「目標とする経営指標等」（同得点第2位）は、トップと僅差であった。そのほかの5項目についても、「人的資本に関する情報開示」（同得点第6位）を除き、いずれも80%以上の得点率であった。なお、横浜銀行以外のグループ銀行のガバナンスや人的資本投資などが見えにくいとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が改善した。充実していたイベントとして、IR Day が挙げられ、人材戦略、中期経営計画の説明会を評価する声が多かった。また、統合報告書における企業価値向上策の長期的課題や取組みの説明を評価する声もあった。

以上

2025年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ローシャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8316 三井住友フィナンシャルグループ	85.7	21.6	1	20.7	1	4.2	2	28.6	1	10.6	1	1
2	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.4	21.1	2	20.6	3	4.2	2	28.1	2	10.4	2	3
3	7186 横浜フィナンシャルグループ	83.1	20.9	4	20.7	1	4.3	1	27.4	4	9.8	4	2
4	8411 みずほフィナンシャルグループ	82.8	20.9	4	20.0	7	4.1	4	27.8	3	10.0	3	5
5	8334 群馬銀行	81.2	21.0	3	20.5	4	4.1	4	26.3	8	9.3	8	
6	5831 しずおかフィナンシャルグループ	80.9	20.2	7	20.5	4	4.0	8	26.7	6	9.5	5	8
7	7167 めぶきフィナンシャルグループ	79.3	19.6	9	20.0	7	3.8	10	26.5	7	9.4	6	10
8	8309 三井住友トラストグループ	78.8	18.9	11	19.7	10	3.9	9	26.9	5	9.4	6	4
9	8308 りそなホールディングス	77.7	19.4	10	19.8	9	3.6	11	26.1	9	8.8	10	7
10	8331 千葉銀行	77.4	18.7	12	20.2	6	4.1	4	25.5	10	8.9	9	6
11	7182 ゆうちょ銀行	75.8	19.8	8	19.1	12	4.1	4	24.3	11	8.5	11	9
12	7189 西日本フィナンシャルホールディングス	74.2	20.4	6	19.6	11	3.6	11	23.1	12	7.5	12	
13	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	67.5	16.0	13	17.9	13	3.4	13	22.7	13	7.5	12	12
	評価対象企業評価平均点	79.12	19.88		19.94		3.95		26.15		9.20		

2025年度の具体的評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。IR部門と十分にかつ双方向で情報を共有していますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報（リスク、不祥事等）や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか。	5
②事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	5
③事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	5
④主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・決算の説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・動画配信、質疑応答等のスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（33点）	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、株主還元策が十分に説明されていますか。	7
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（市場目線に即したROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	4
(4)環境・社会に関する情報開示	
①環境に関する情報、定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	4
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	4
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、会社独自のKPIや人的資本に関する投資の定量的成果（財務的成果等）について開示がされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。[過去1年間を目安に評価] 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	6

銀行専門部会委員

部会長	高宮 健	野村證券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI 証券
	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
	松野 真央樹	みずほ証券
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（20名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ 証券
大野 剛	丸三証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
佐藤 雅彦	SMBC 日興証券	終 宏二	QUICK
佐野 滉介	第一生命保険	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
鮫島 豊喜	SBI 証券	松田 健	大和証券
高宮 健	野村證券	松野 真央樹	みずほ証券
田村 晋一	岡三証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント	矢野 貴裕	JP モルガン証券
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。